

巻 頭 言



岡山県知事 伊原木 隆太

多文化共生の地域づくりと グローバル人材の育成を目指して

岡山県は、南は瀬戸内海に面し、北は中国山地に抱かれた豊かな自然と、「晴れの国」と呼ばれる温暖で過ごしやすい気候に恵まれた暮らしやすく魅力ある地域です。歴史的には、奈良時代に吉備真備が遣唐使として大陸に渡り、江戸時代には朝鮮通信使が備前国の牛窓の地を訪れるなど、古くから国際交流が盛んに行われてきました。

現在も、中国の江西省、オーストラリアの南オーストラリア州、インドのマハーラーシュトラ州プネ市およびピンプリ・チンチウッド市、韓国の慶尚南道の友好交流提携先をはじめ、本県からの移住者が多い南米諸国などとの交流を推進し、友好交流の充実を図っています。

近年、県内の在留外国人は増加傾向にあり、2020年6月末現在で3万1,000人を超える人数となっており、国籍などにかかわらず、全ての人が安心して暮らせる地域社会の形成が求められています。そのため、県では2019年4月に「岡山県外国人相談センター」を開設し、相談体制の充実・強化を図るとともに、大規模災害発生時に、避難所などで通訳・翻訳を行う災害救援専門ボランティアの養成などの取り組みを行っています。

また、グローバル化が進んだ社会では、直面する課題を自ら発見し、言語や文化の異なる人と協働して解決できる能力が求められます。これらグローバル化の進展に対応するため、2021年度から新たにスタートした「第3次晴れの国おかやま生き生きプラン」において、「グローバル人材育成プログラム」を戦略プランの1つとして掲げ、ALT（外国語指導助手）やネイティブスピーカーレベルで話すことができる人材、ICTなどを活用し、小・中・高等学校における英語4技能を意識した英語教育の充実を図っていくこととしています。さらに、新型コロナウイルス感染症の収束を見据え、留学経験者が参加するオンラインセミナーなどの開催により、留学への関心や意欲を高めるとともに、産学官が連携して留学にチャレンジする学生たちを支援するなど、国際的に活躍できる人材の育成を図っていきます。

新型コロナウイルス感染症を契機に社会は大きく変化しようとしています。新しい時代の要請に応えるため、国際交流、多文化共生、さらにはグローバル人材の育成など、国際化に向けたさらなる取り組みを進めてまいります。